かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第３７号（令和３年６月）

武家屋敷（ぶけやしき）

森本家（もりもとけ）

三輪家（みわけ）

あゆむ「今日は、武家屋敷だね。侍の家ってどういうのかな？」

ミドリ「私もよく通っているけど、中は見ていないわ。“寺子屋”やっているのよね。」

あゆむ「案内板がある。」

ミドリ「“上山藩武家屋敷案内図”」

あゆむ「４軒が並んでいるな。」

ふみお「えーと、“上山城(月岡城)が天文４年(1535)に築かれると、その西、北部一帯は武家屋敷となり、この仲丁通りには、藩の要職にあった家臣が居住していた”とある。つまり、城ができて、この辺に大事な役目の武士が住むようになったということだね。」

ミドリ「森本家、三輪家、山田家、旧曽我部家。」

あゆむ「よし、行ってみよう！まず、森本家。」

ミドリ「いつも道路から見ているけど、すてきな門とお庭ね。説明板があるわ。」

文じい「森本家は、殿様の藤井松平氏が上山に来る前からの家来で、殿様に付き添う重要

な仕事と、藩の学校“明新館”の先生や殿様にお教えするような役目までやられたお家じゃ。屋敷内の新家にご子孫が住んでいらっしゃるので見学はできない。」

ミドリ「すごいお家なのね。」

あゆむ「それじゃあ、次の三輪家に行こう。」

ふみお「ここにも説明板があるし、案内の方もいらっしゃるようだ。」

ミドリ「こんにちは。よろしくお願いします。」

ふみお「いただいたリーフレットの平面図に、お聞きしたことをメモしてみよう。」

江戸時代の後期、文化元年(1804)頃の建物のようだ。

寄棟、茅葺き屋根、かぎ型の曲屋で、武家中門造り。周りを土塀とか土塁で囲む。敷地は 400 坪。屋敷は 200 坪。昭和の時代に改築した。

11 代目殿様の信古候の家臣となり、三輪と名のる。側用人という殿様のくらしの世話、秘書のような役目や、藩校明新館の先生なども務めた。

明治時代になって、お金を扱う仕事を進め発展した。金庫が残っている。

勝手口（**裏口**）。外に中間という使用人の小屋があり、ここから出入りしていた。

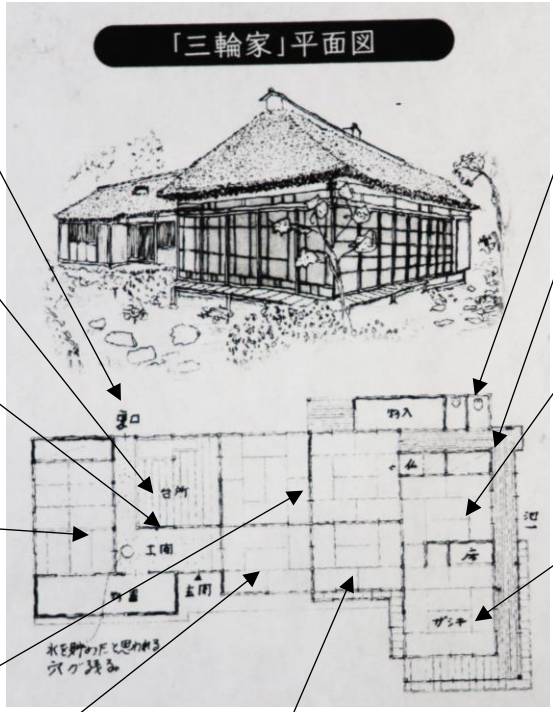
台所

天井裏に隠れて見張っていた**武者隠し**という小部屋もある。

土の床の**土間**。家族の者が出入りする玄関に続く。**かまど**が２つ。**井戸**もあった。

奥。家族がくらす部屋で**居間と寝室**。もとは天井が無かった。

控の間。客にお供する従者が控えている部屋



式台というお客や主人が出入りした玄関があり、応接した部屋

厠（トイレ）

もとは**廊下**が台所まで続いていた。

仏間。**もとは二の間**で、上段の間とはふすまで仕切られていたようだ。

上段の間。客を応接した部屋。改築前は東側（図の下側）に床の間があった。

板戸で締めて、**濡れ縁**が外側にあった。

ふみお「いろいろ考えて複雑に造られていたんだね。」

ミドリ「次の武家屋敷も見学させてもらいながら、もっと調べたいわね。」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）